

審査経緯

平成22年10月15日 第1回審査委員会開催

委員委嘱後、委員長、副委員長を選出しました。
実施要領、審査方法、審査公表について検討しました。



平成22年10月18日 実施要領公告

実施要領を公告しました。

平成22年10月26日～28日 現地説明会開催

3日間で、34組71名が参加されました。



平成22年11月4日 第1次審査質疑応答

26者から169項目について質問があり、回答しました。

平成22年11月8日～12日 第1次審査提出図書受付

71者から第1次審査書類の提出を受けました。
1者は、書類の不備、不足等により応募資格の確認ができなかったため、受理できませんでした。
70者の応募を受付しました。

平成22年11月14日 第2回審査委員会開催（第1次審査）

オブザーバー3名を委嘱しました。

受付番号33は、業務対象施設である複合施設が、業務範囲外に提案されているため、実施要領に基づき、失格としました。

69者の提出図書について審査を行い、第1次審査合格者として12者を選定しました。



(1) 選定経過

10者の選定を目標に、各審査委員は10者を選びました。（有効投票数59票）

→ 投票の結果

4票： 7番、 8番、 66番、 70番

3票： 6番、 40番、 58番

2票： 5番、 34番、 43番、 52番、 57番、 63番

1票： 12番、 15番、 17番、 18番、 20番、 21番、 30番、 32番、 35番、 37番、
38番、 39番、 41番、 42番、 45番、 53番、 56番、 59番、 60番、 62番、
64番、 69番

① 投票が3票以上だった応募者について審査を行った結果、7者とも第1次審査通過者としました。

② 投票が1票、2票だった28者の応募者について審査を行った結果、
34番、57番、62番、63番、69番 の5者を第1次審査通過者としました。

(2) 選定結果（第1次審査通過者：12者）

受付番号	応募者名	事務所名
6	柳 瀬 寛 夫	株式会社 岡田新一設計事務所
7	安 藤 忠 雄	株式会社 安藤忠雄建築研究所
8	伊 東 豊 雄	一級建築士事務所 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所
34	山 本 圭 介	山本・堀・元倉設計共同体
40	新 居 千 秋	株式会社 新居千秋都市建築設計
57	妹 島 和 世	有限会社 SANA事務所
58	山 本 理 顕	株式会社 山本理顕設計工場
62	槇 文 彦	株式会社 槇総合計画事務所
63	鳴 海 雅 人	株式会社 佐藤総合計画
66	藤 本 壮 介	藤本壮介建築設計事務所
69	石 上 純 也	株式会社 石上純也建築設計事務所
70	宇 野 享	C+A・大建met・大建設計設計業務特別共同企業体

平成22年12月10日 第2次審査質疑応答

7者から36項目について質問があり、回答しました。

平成22年12月20日～24日 第2次審査提出図書受付

12者から第2次審査書類の提出を受けました。

平成23年1月7日 第3回審査委員会開催（第2次審査）

提出図書に基づき第2次審査を行い、第2次審査合格者として3者を選定しました。



(1) 選定経過

提出された図書を基に、議論を行いました。

各審査委員より、通過者の候補を推薦しました。

→ 推薦の結果

6番、8番、34番、57番、58番、62番、66番

① 推薦を受けた7者の応募者について審査を行った結果、

8番、62番、66番 の3者を第2次審査通過者としました。

(2) 選定結果（第2次審査通過者：3者）

受付番号	応募者名	事務所名
8	伊東豊雄	一級建築士事務所 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所
62	榎文彦	株式会社 榎総合計画事務所
66	藤本壮介	藤本壮介建築設計事務所

平成23年1月14日～21日 代表作品現地調査（事務局）

事務局が3者の代表作品の現地調査を実施しました。

8番 せんだいメディアテーク

平成23年1月18日（火）

62番 福井県立図書館・文書館

平成23年1月14日（金）

66番 武蔵野美術大学図書館

平成23年1月21日（金）



平成23年2月5日 第4回審査委員会（第3次審査：現地調査報告）

3者の代表作品現地調査結果の報告を受け、議論を行いました。



平成23年2月6日 第5回審査委員会（第3次審査：プレゼンテーション、ヒアリング）

応募者による公開プレゼンテーション及び審査委員によるヒアリングを行いました。



第3次（最終）審査を行い、最優秀者、優秀者、準優秀者を選定しました。



(1) 選定経過

提出された図書、代表作品の現地調査、応募者によるプレゼンテーション、審査委員によるヒアリングを基に、議論を行いました。

① 審査を行った結果、

8番を最優秀者に、62番を優秀者に、66番を準優秀者に選定しました。

(2) 選定結果（最終審査）

選定結果	受付番号	応募者名
最優秀者	8	伊 東 豊 雄
優秀者	6 2	槇 文 彦
準優秀者	6 6	藤 本 壮 介



講評（審査委員長 北川原 温）

はじめに、このプロポーザルに応募された多くの設計者の方々に心より敬意を表しますとともに、提案や書類の作成に貴重な時間と労力を費やされたことに感謝を申し上げます。応募された設計者はいずれも日本・世界の第一線で活躍されている方々で、非常にレベルの高いプロポーザルとなりました。これだけの多くの優秀な設計者の応募があったことは、岐阜市のこのプロジェクトに対する関心の高さを証明しているといえます。

「岐阜大学医学部等跡地複合施設設計者選定審査委員会」は、学識経験者、行政職員合計7名で構成され、各委員の専門性を生かしながら、資質評価に重点を置いた公募型プロポーザル方式により3段階の厳正な審査が行われました。実施にあたっては、広く優秀な設計者にプロポーザルへの参加を求め、また、設計案を選ぶのではなく、行政や市民と一体となって練り上げていく優れた設計者を選定するため、「参加条件に実績要件を設けないこと」、「設計に及ぶような詳細な表現を求めないこと」、「設計者の能力、それを裏付ける提案や実績等を重視すること」、「登録された代表作品の現地調査及び管理者からのヒアリングを実施すること」、「最終審査のプレゼンテーション、ヒアリングを一般公開すること」とされました。

審査委員会では、審査委員による熱心な議論がなされ、毎回予定時間を延長することとなりました。審査委員会としては、今回のプロジェクトの規模が大きく、中心市街地のみでなく岐阜市の文化、経済に与える影響がきわめて大きいことから、岐阜の将来を見据え、目先のことにとらわれず大所高所から、そして市民の身になって真剣に審査されました。

第1次審査では、70者から提出された第1次審査提出図書について、「景観と回遊性など周囲との関係性が適切である」、「利用者への配慮がなされている」、「場所の特性をつかんでいる」、「時代の変化に対応できる可変性を備えている」、「建築を長生きさせる視点を持っている」、「この建物をきっかけとして岐阜市が全国、世界の人の目に触れるような広がりを生むことができる」などを各審査委員が資質評価の視点とし、投票を行いながら、議論により第2次審査に進む12者が選定されました。

第2次審査では、第1次審査通過者12者から提出された第2次審査提出図書について、「行政や市民の要望に対し、理解し対応できる柔軟性を持つ」、「無理難題を解決し、高いレベルで設計をまとめ上げる高度な知見と技術を持つ」、「人を惹きつける話題性が期待できる」、「顔がみえる設計者、つまり固有性、独創性を持つ」、「まちづくりへの貢献が期待できる」、「美しい都市環境の創出に貢献できる」、「長いスパンで見て、機能更新があったとしても岐阜の社会的・文化的な面から歴史に残り市民に永く使われていく建築になる」などを各審査委員が資質評価の視点とし、推薦を行いながら、議論により第3次審査に進む3者が選定されました。

第3次審査では、第2次審査通過者3者の代表作品現地調査、応募者によるプレゼンテーション、審査委員によるヒアリングにより議論を行いながら、最優秀者、優秀者、準優秀者が選定されました。応募者の方々はいずれも世界トップレベルにある方々であり、審査委員会としては大変難しい判断を迫られました。

最優秀者となった伊東豊雄氏は、代表作品としてあげられた「仙台メディアテーク」が建築そのものの話題性、情報発信、にぎわいの創出、独創的で斬新なデザインなどの点で評価が非常に高く、提案内容においても「独創性に富み、強い生命力や未来を感じさせる建築」、「斬新な発想の室内気流の制御」、「地域特性のとらえ方が優れている」、「フレキシビリティが高く、長寿命の建築」など高い評価が与えられました。一方で斬新な提案であるだけに「素材や構造・構法などにおける課題」も指摘されました。

優秀者となった楨文彦氏は、代表作品としてあげられた「福井県立図書館・文書館」が完成度の高さ、静謐な空間、ランドマークの演出の巧みさなどで評価され、提案内容においても「長生きする建築＝愛される建築という考え方が素晴らしい」、「想像力を駆り立てる大変気持ちが良い空間」、「人々の活動が見えて、想像力が沸き立ち共感できる」、「公共空間のあり方を高いレベルで示している」、「豊かな孤独という表現を用いて、高齢者に対する高度で知的な配慮がされている」など高く評価されました。

準優秀者となった藤本壮介氏は、代表作品としてあげられた「武蔵野美術大学図書館」がその個性的、挑戦的なデザインの点で評価されましたが、一方で技術的、機能的な面の問題も指摘されました。提案内容については「森をつくり建築が森と一体となって都市に場所をつくるというアイデアは斬新で面白い」と評価されましたが、一方で周辺環境への配慮、実現するための技術と体制などの点で不安を感じるという意見もありました。

最終審査も委員相互の熱心で真剣な議論が行われ、「都市のにぎわいや新しい美の創出」、「岐阜の未来への予感」を強く感じさせる伊東豊雄氏が最も「岐阜大学医学部等跡地複合施設」の設計者として相応しいと評価され、全会一致で最優秀者に決定されました。

今回の第一期整備に続き、第二期に行政施設、第三期に市民文化ホールが想定されております。まさに岐阜市が21世紀の都市づくりにむけて、新たな骨格づくりに着手されました。これからは地方都市が世界とつながって文化や経済を発展させていく時代と思われれます。つまり、「日本の岐阜」だけでなく「世界の岐阜」として飛躍していくべきステージに入っています。その戦略を着実に進めておられる岐阜市長はじめ岐阜市の皆様に、こころよりエールを送ります。そして今回のプロポーザルで選ばれた伊東豊雄氏が岐阜市の飛躍的な発展に貢献する素晴らしい建築を設計されることを確信しています。